班　回覧

資料　　我が町が火の海になる危険性

2024 年 7 月 12 日
小田

現在、我が町内で太陽光パネル設置の住宅が建設中です。**皆さんの命と安全安心の街づくりのため**、太陽光パネル設置を止めようと動きましたが、市役所も連合自治会も全く理解がなく、拝金主義の新興宗教団体のようなハウスメーカに押され気味です。現在、孤軍奮闘中。そのための啓蒙活動です。

住宅密集地での太陽光パネル設置は危険です。火災の場合、太陽光パネル設置の家なら、消火が難しいので、延焼でその町が火の海になる恐れがあります。
多くの人は、悪徳ハウスメーカに騙されて太陽光パネルを買わされている。太陽光パネルの危険性を知らせず売るのは、詐欺商売同然である。拝金宗教団体のように悪徳ハウスメーカは、**「大垣市建築物の建築に関する紛争防止指導要綱」違反**で、エゲツナイ商売をしている。売上高が下がるので、一度契約すると、仕様変更には絶対応じない。新興宗教の入会活動によく似ている。

太陽光パネル設置の家の火災の場合
太陽光パネル設置の家の火災は、水では消せない。燃え尽きるまで、待つしかない。2017 年のアスクル工場の火災では、消火できず 12 日間、燃え続けた。発火原因が太陽光パネル以外でも、その家屋が火事になれば状況は同じである。
水で消火すると消防士に感電の恐れがある。ドイツで消防士が感電死している。それで恐る恐る消火活動するので時間がかかる。そのため延焼が防げない。

東京消防庁の太陽光パネルの消火研究の結果は、感電に最大の注意を払って消火活動をせよ、である。
大垣消防署は特殊化学消火液で消火する。しかし特殊化学消火液の消防車には台数に限りがある。大災害時に同時多発的に火災が発生すると、実質的に消せない。結果、街が火の海になる。

電気自動車が火災の場合、１台の EV 車火災で４トン程の放水が必要。熱画像カメラを継続的に使用し、燃焼状態と温度など、発熱＆発火部分を確認しながらピンポイントに注水する。

住宅密集地で起きた火災例

大垣市桐ケ崎町の火事（2013 年 10 月 27 日）　小田が撮影、岐阜新聞に掲載
上図の消火器は私が使用。この大火には全く非力だった。

場所は大垣八幡神社の東隣で、近年まれにみる大火事となった。
この火事は住宅密集地で起きた火事で、**近隣が火の海となり**、火元を含め 4 軒がほぼ全焼である。左隣の家は 4 階建てのビルだったので、それが防火壁となって、左方向の延焼だけは止まった。

住宅密集地にこういう大量の危険物（塗料）があると、火の海になる。

太陽光パネルも危険物で、燃え出すと燃え尽きるまで消火が難しい。

真の防災とは、災害が起きてから対処する（泥縄）のではなく、その前に被害が拡大しないように対策をしておくことだ。

その対策の一つが「住宅密集地での太陽光パネル設置禁止」である。